

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500127		
法人名	株式会社 名東介護センター		
事業所名	グループホーム エム・ケア名東 2階		
所在地	名古屋市名東区高間町43		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
ヒアリング調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルスをはじめとする、感染症対策に会社をあげて取り組んできた。毎月の施設内研修は、看取りや身体拘束について管理者や看護師が講師となり、新入職員にも解説を行っているが、今年度は十分に距離を取った上で常に換気を行い、少人数で開催されている。利用者はマスクを着用し手洗いがいを徹底しながら、近所への散歩や日常の家事を行っている。施設内行事も各ユニット毎少人数にて行い、コロナ禍においてもいきいきと過ごせる工夫を行っている。日々様子を写真に撮り定期的に家族に送付しており、面会に制限がある中でも利用者の様子をこまめにお伝えしている。経験豊富な看護師が常駐しており、職員は日常的に感染症対策や利用者のケアについて相談や指導を受けることができ、安心して業務にあたる事ができている。コロナ禍でも認知症ケアを軸に利用者の生活と健康を守る努力を継続したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念である「共に生活(いきる)」について、施設内研修等で折に触れ学ぶ機会があり、全ての職員が周知している。新人職員にも入社オリエンテーションにて教えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と散歩に出掛けた時には、すれ違う人に必ず挨拶を行ったり、近所の子供達に利用者が手を振ったりして交流している。コロナ禍ではあるが散歩は天候がよければ職員としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、今年度の運営推進会議は中止となっているが、出席者には運営状況や施設内の様子を郵送にて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により運営推進会議を中止とし、郵送で運営状況の報告をしており、実績報告書と意見や要望を記入していただく書面を同封し、返信をしていただき、意見の把握に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市担当者に報告し、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関の自動ドアは、夜間を除いては無施錠である。職員は施設内研修にて身体拘束について繰り返し学んでおり、気を付けながら日ごろのケアに取り組んでいる。また、身体拘束防止委員会で話し合われた内容について議事録を公開し、職員全員が周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、施設内研修にて折に触れ学んでおり、常日頃から高い意識を持って職員同士が声を掛け合いながら職務にあたっている。コロナ禍でも研修を工夫して開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用していた利用者があり、その必要性を理解している。また、これから制度を利用しようとしている家族の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に施設長から利用者の家族へ丁寧に説明を行い、疑問点が無いかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長が普段からこまめに家族と連絡をとり、日常の報告等と合わせて要望の把握に努めている。施設入り口には意見箱が置かれており、無記名で投函する事ができる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で職員会議ができなくなっている分、施設長や看護師がいつも以上に職員の声に耳を傾けており、職員は気軽に思ったことを相談することができている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長と個別に面談し、個人の思いや状況を相談する機会がある。また、家族の介護や育児をしている職員には短時間勤務を認める等、家庭の状況により都度相談することができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育係を中心とした経験豊富な職員が新人職員の能力に合わせて指導を行っている。また、毎月の施設内研修(感染症対策等、少人数)にて介護職に必要な情報を得ることができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社の職員と一緒に研修を行ったり、情報交換する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者や計画作成担当者が面談を行い、世間話の中で本人の気持ちや要望を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入にあたり家族にセンター方式家族版の記入をお願いしており、家族や本人の要望の把握に努めている。また、利用開始してしばらくは家族との連絡を密に行い、不安を軽減することができるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に利用者や家族から聞き取りを行い、利用中の事業所から情報提供を得るなどして必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだりや食事の盛り付け等、利用者と職員が協力しあいながら行っている。利用者は率先して家事を行うので職員はお礼労いの言葉かけを欠かさない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限がある中でも、家族と連携を行っている。例として、手編みの衣服の洗濯を家族にお願いしたり、ひ孫さん手作りのカレンダーを持参される家族もあり、利用者の楽しみとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会が制限されてからは、利用者の写真にメッセージを添えて家族に送っている。それに対して返信を下さる家族も多く、馴染みの人や家族との交流を支えている。多くのご家族から喜びと職員への労いの言葉を頂けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見極め座席を決定している。また、日々の暮らしの中での利用者同士の関係性の変化を観察し、その関係が円滑であるように職員が仲を取り持ったり間に入りフォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の葬儀には故人と縁のある職員が参列しており、初盆にはご挨拶をしている。また、職員会議では看取りを振り返る時間を設けている。また、亡くなった利用者の家族とはその後もお付き合いがあり、相談に垂ることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者が、ケアプラン作成前や日常の関わりの中で利用者の意向の聞き取りを行っている。センター方式のアセスメントにより、意思疎通が難しい状態にあっても本人の思いに寄り添うことができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族により記入されたセンター方式家族版や以前利用していた事業所の情報提供を受けることにより、利用者の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者に二名の担当職員がおり、日頃から気にかけて関わっている。その担当者が作成した詳細なアセスメントを参考に、計画作成担当者が利用者の現状を把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は看護師や介護職員・夜勤者に本人の様子について聞き取りを行い、その時必要な支援を見極め、ケアプランに反映させている。介護記録は24時間シートになっておりチェックを欠かさず情報収集している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々、24時間の様子をセンター方式のシートに細かに記録しており、それを計画作成担当者が、毎月のモニタリングや日々の支援経過の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2Fには愛犬と共に入居した利用者がある。散歩には他の利用者も同行し、ユニット全体で受け入れている。その暮らしを、家族と連携しながら支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に一番近い公園に散歩に行ったり、景色が良く駐車場が完備された公園へドライブに行き、利用者の気分転換や運動の場所として役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の病院への通院支援は適宜、施設側にて対応している。また他科への受診も往診医の指示や家族希望にて整形・眼科・耳鼻科への受診を付き添いは日常的に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経験豊富な看護師が常駐しており、介護職員と一緒に日常ケアに参加して異常の早期発見ができています。また、介護職員が気づいた利用者の体調の変化を上席へわかりやすく報告できるように、報告カードを各階に設置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折等で入院中から病院関係者との連絡を密に行い、退院前のカンファレンスに出席し、情報共有につとめている。家族の希望で病院の指示する入院期間前に退院できるよう支援することも多い。(入院中にADL低下することを家族は懸念させる)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約を行う時に、家族や本人に終末期についての考えを聞き、話し合っている。入居後も、体調や状況の変化があるたびにその意思を確認し、家族や本人と寄り添って方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	報告マニュアルがあり、夜間の緊急時にも落ち着いて対応できるような仕組みが整えられている。それを含めた緊急時の対応を、施設内研修で折に触れ確認することができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、名東消防署の指導のもと避難訓練を実施しており、職員は災害時の通報や避難の仕方などを学んでいる。今年度はコロナ禍の中、名東消防署員の訪問指導を受けたり積極的に災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等の接遇について、管理者や教育担当から指導を行っている。また、トイレや入浴は特に羞恥心に配慮した介助や声掛けを心がけている。職員同士が仲間の声かけに慎重になるよう指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選ぶこと、散歩に出かけるタイミング等、本人の意思を尊重しながら日課を進行している。また、認知症が進んだ利用者には、はい・いいえで答えられるような質問をし自己決定の手助けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を尊重し入浴の時間を決定したり、その日の体調や気分に合わせて食事の時間をずらす等の柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝薄化粧をする利用者には、寝る前の化粧落としの手助けを行っている。コロナ禍で理美容が来られない中でも、毎日みつあみ等をして髪を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では、盛り付け配膳、後片付けを利用者で行う。また、感染症対策を徹底し、おやつ作りレクリエーションを継続している。多くの利用者が積極的に家事は参加している。失敗しても職員は本人には言わずさりげなく直す。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分があまり進まない利用者には、時間にこだわらず随時好みの飲み物を提供している。食事においても、一人一人の好みを把握し適した量や形態で提供できるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの時間があり、その人の力に応じて手助けや声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全身状態が低下していてもできるだけトイレ誘導を行い、便座に座って気持ち良く排泄ができるように支援している。職員は夜間とてオムツありきではない排泄支援を根気よく行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者は毎朝体操を行い、可能なかぎり散歩に出掛けて運動の機会をもっている。また、おやつに牛乳やバナナを提供し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で時間や回数を決めず、可能な限り夜間帯や連日の入浴に対応。気が進まない時も無理強いせず、仲の良い利用者を入浴を提案する等、安全に配慮しながら一人ひとりに合った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休めるよう居室を整えたり、共有スペースのソファに座ってオットマンで両足を挙上できるようにしている。利用者一人ひとりの体調や体力に合わせて適宜休息の時間をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれに合わせた方法で服薬支援を行っている。常に様子の観察・記録を行い、変化があれば看護師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は、洗濯物を干したりたたんだり、食事の配膳や盛り付け等の家事作業を、自分の役割として毎日行っている。また、外出やゲーム等のレクリエーションにより気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	愛犬とともに入居した利用者は、毎日のように愛犬との散歩を楽しんでいる。また、多くの利用者がドライブへ毎月のように外出できるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして現金を預かり、必要時に使えるように支援している。コロナ禍前はスーパーに買い物にお連れしご自分で支払いできるよう支援していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会に制限がある中で、利用やひとりひとりの家族に向けて、写真を添えたメッセージカードを定期的を送っている。また、暑中見舞いや年賀状を本人と作成し、家族との繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜清掃・整頓や換気を行い、清潔を保つよう心がけている。消毒や換気は管理表を作り全ユニットがしっかりできているかチェックしている。匂いにも気を配っている。派手すぎない季節に合わせた飾り付けを行い、利用者が見て季節を感じることができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットには4つのテーブルがあり、話の合う利用者同士で集まって会話を楽しんでいる。また、部屋の角にあるソファでは、一人でゆったりくつろいだりテレビを観て過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は入居時には使い慣れた家具や小物を持ち込んでいる。居室は定期的に各担当者により整えられ、リラックスして過ごすことができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は文字だけでなくマークが掲げられており、視覚的にわかりやすいよう配慮がなされている。		